

テーマ:『 自然に親しみ、豊かな学びを創る子どもの育成 』

横浜市小学校 理科研究会

Tel. 045-822-7344 担当者: 大石久宜

045-931-2219

鈴木康史



複数社の教科書の副読本を活用しての検討会(5月～)

■実践内容:

平成20年3月告示された文部科学省「小学校学習指導要領」において、平成10年告示指導要領になかったものとして、3年「風やゴムの働き」「物と重さ」「身近な自然の観察」、4年「人の体のつくりと運動」、6年「電気の利用」「月と太陽」が新設されたり、小単元レベルで内容が追加されたりしている。これらは理数教育の充実のもと先行実施され、平成22年度には事実上完全実施であるが、まだまだ十分な教材研究や教材開発、単元構成などが研究されていない。

そこで、本研究会において、本年度より研究主題を「自然に親しみ、豊かな学びを創る子どもの育成」を設定し、平成21・22年度は「新指導要領に根ざした、単元開発と授業づくり」を中心に各部会の実践研究を進めている。毎月行われている各部会の研究会、及び本研究会が毎夏行っている夏季ゼミナールにて、教材の研究及び共同検討会を行い、共通理解を図りながら教材の理解に努めたり、各校の子どもなどの反応を集約したりする。

■実践成果:

今回の助成を活用して、昨年度に引き続き多くの教材の研究を行った。また、児童に配布された教科書代わりの複数社の補助教材用の解説書を助成費より購入し、比較検討することでより良い教材のあり方を考えることとした。

前述の夏季ゼミナール(7月27・30日)においては、手回し発電機やさまざまな自作教材の作成費用とし、ワークショップとして多くの参加者と共に触り、共に考える機会を得た。多くの参加者からも注目を集め、講師として迎えていたも文部科学省初等中等教育局 教科調査官 村山 哲哉先生、横浜国立大学 教授 森本 信也先生も交え、多くの教材研究や実践報告がなされ、今後の学習の共通理解を図ることができた。

■実践ポイント:

新教材に増加に伴う模型や発電機などの整備が、この2年間の各校の課題となっている。市の各部会の研究における成果を、各種実技研修会、2月の研究発表、3月の紀要配布、指導計画と教材の両面により広報していく。

